

たいにい・ぼっくすつうしん

Vol. 77

令和3年
8月12日

私たちが、バリアをフリーに

コロナ禍2年目の夏休み。日常を取り戻そうと、感染拡大の対策と並行して、外出先は各所様々な工夫を凝らしています。しかしながら、1日の感染者数が“過去最多”と毎日のように更新され、4度目の緊急事態宣言が発令されました。「外出先を変更したよ」と話すと、昨年の緊急事態宣言を思い起こしたのか、「夏休みが長くなるの？」と学校休業のほうが気になる（楽しみ？）反応。「ならないよ」と、笑顔で返してあげました。

外出先は、利用しやすい場所と工夫や事前対処をしなければならない場所があります。初めての外出場所で必ず事前チェックするのがトイレです。最近の施設は、障がい者トイレはもちろんのこと、男子トイレにもおむつ替えシートが設置されるようになりました。しかし、障がい者用トイレが複数個所無かったり、おむつ替えシートがベビー用だったり、私たちが利用するには不十分なケースがあります。他にも、エレベーターや出入口の大きさ、スロープの幅と傾斜の角度、テーブル席の有無、ハイルーフ送迎車の駐車場所をチェックします。浮き上がった障壁に対しどのように対処すればよいか考えれば、すべてが好条件でなくても外出できない場所にはなりません。

バリアフリーは、エレベーターがあったり、スロープがあったり、手すりが取り付けられていたり、一段の段差もないことではありません。大型の車椅子ユーザーは、十分な広さがないエレベーターや介助者が押さなければ上ることができない傾斜のスロープでは、バリアフリーにならないかもしれません。一方、手すりを使って階段を上ることができる車椅子ユーザーは、エレベーターがなくても車椅子を上階まで運んでくれる人の存在があれば、バリアフリーが成立するのです。

事業所の外出は、障壁（バリア）があっても、私たちスタッフが手を添えることで除去（フリー）になるということです。

たいにい
のようす

写真掲載欄のため、内容を削除しております

バリアフリー

障がいのある人が社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものを除去するという意味で、もともと住宅建築用語で登場し、段差等の物理的障壁の除去をいうことが多いが、より広く障がい者の社会参加を困難にしている社会的、制度的、心理的なすべての障壁の除去という意味でも用いられる。

ユニバーサルデザイン

バリアフリーは、障がいによりもたらされるバリア（障壁）に対処するとの考え方であるのに対し、ユニバーサルデザインはあらかじめ、障がいの有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。

出典：障害者基本計画(H14.12.24閣議決定)

9月の予定

お月見、敬老の日
(創作)

9月 休業日

4日 5日
11日 12日
18日 19日
20日
23日
25日 26日

